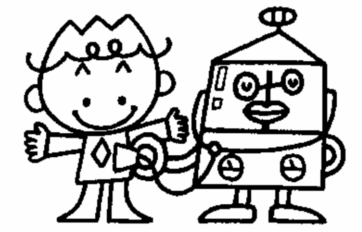
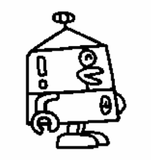


小／理科／５年／生物と環境／
魚の卵の成長／理解シート

メダカのしっぽがちぎれたようになってきたのは、なぜなの



大きな魚にかじられたのでなければ、病気になっているので、すぐ別な水そうに移し、ちりょうしてあげるといいよ。

■水そうの水がよごれていたりすると、魚も、病気になりやすい

しっぽがちぎれたり、とちゅうからとけたようになっているメダカが見つかったら、すぐ、別な水そうに移しましょう。体の大きい魚と同じ水そうで飼っていると、小さなメダカはおびれをかじられたりすることがありますが、そうでなければ、おぐされ病にかかっていると考えられます。

水かえなどのときに、どこかにこすれてメダカの体に小さいきずができたりすると、そこから細菌が入って起きる病気です。おびれの先が白くなり、あちこち切れたり、おびれがとけてくるのが、おぐされ病です。同じ細菌がえらに入り、えらが変色したり、はれたり、かけてくるのが、えらぐされ病です。

同じ水そうに入れておくと、ほかの魚に病気がうつり、全部死ぬこともあるので、病気らしい魚は、すぐ、別な水そうにうつしましょう。

■病気の防ぎ方と、ちりょう法

メダカをすくったり観察したりするとき、そうっとあつかい、水そうの水はいつもきれいにしてやります。寄生虫がついてきずができ、えらぐされ病にかかることも多いので、寄生虫の予防が大切です。寄生虫の予防や、病気をなおすには、ペットショップなどで相談して、薬とちりょう法を教えてもらいましょう。

１%のこさの食塩水に、毎日きっかり 30 分ずつつけて、もとの水そうにもどしてやることをくり返す方法も、皮ふの病気にはききめがあります。

川でとった魚や、夜店のキンギョなどは、２～３日病気でないことをたしかめてから、ほかの魚と同じ水そうに入れないときけんだよ。